

これからの時代を生き抜くための医師のキャリアプラン

科目責任者 平 田 幸 一
学年・学期 1 学年・通年

I. 前 文

当然のことながら、諸君は獨協医科大学には自らの目的、夢、将来像を想い入学したものと思う。

いずれにせよ大半の諸君は臨床医、研究医などになり多くの病に苛まれる患者のために何らかの形で役に立つことを目標として入学したのであろうが、本講義では医師としてのプロフェッショナルリズムを学ぶ。そのロールモデルとして、本学の教職員個々の歩んできた道程について述べてもらう。さらに、本学および大学病院で行われている最先端医療、最先端研究について紹介してもらう。

II. 担当教員

<臨床医としてのキャリアプラン>

副 学 長	平 田 幸 一	
教 授	入 澤 篤 志	内科学（消化器）
教 授	三 谷 絹 子	内科学（血液・腫瘍）
教 授	麻 生 好 正	内科学（内分泌代謝）
教 授	仁 保 誠 治	内科学（呼吸器・アレルギー）
教 授	楯 靖	放射線医学
教 授	吉 原 重 美	小児科学
教 授	小 嶋 一 幸	第一外科学
教 授	窪 田 敬 一	第二外科学
教 授	福 田 宏 嗣	心臓・血管外科学
教 授	千 田 雅 之	呼吸器外科学
教 授	妹 尾 正	眼科学
教 授	朝 戸 裕 貴	形成外科学
教 授	濱 口 眞 輔	麻酔科学
教 授	小 野 一 之	救急医学
教 授	竹 川 英 宏	脳卒中センター
准 教 授	大 内 基 司	薬理学
講 師	福 島 篤 仁	感染制御・臨床検査医学

<基礎研究医としてのキャリアプラン>

教 授	徳 田 信 子	解剖学
教 授	神 作 憲 司	生理学
教 授	杉 本 博 之	生化学
教 授	藤 田 朋 恵	薬理学
教 授	矢 澤 卓 也	病理学
教 授	増 田 道 明	微生物学
教 授	白 瀧 博 道	分子細胞生物学
教 授	小 橋 元	公衆衛生学
教 授	黒 須 明	法医学
特任教授	千 種 雄 一	

Ⅲ. 一般学習目標

臨床・基礎医学に携わる各教職員の経験した道筋を知り、学修者のロールモデルに重ねる。あわせて、各分野の最新医学の現況を知る。

優れた研究者や臨床の最前線の医師の活躍を理解する。

医学を学ぶことへの動機づけを行う。

医師としての目標や将来のビジョンを考える。

Ⅳ. 学修の到達目標

医師としてのプロフェッショナリズム、良識、倫理、信念を学び、1学年生なりの自らの医学への携わり方、すなわち自身の医師のキャリアプランにつき思いを馳せる。

キャリアについて基礎的な知識や考え方を理解できる。

自分のキャリアについて、過去・現在・未来の連続性を見出せる。

卒業後の社会における自分について、キャリアという視点からイメージできる。

Ⅴ. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1：反転授業形式(事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。)

2：ディスカッション 3：グループワーク 4：実習 5：プレゼンテーション 6：その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	4	12	月	3	君たちはどのように医療に携わりたいのか(全体オリエンテーション)	平 田 幸 一	
2		19	月	3	全人的医療から産婦人科そして公衆衛生へ	小 橋 元	
3		26	月	3	これからの時代を生き抜くための微生物学研究	増 田 道 明	
4	5	10	月	3	Knock, and it will be opened to you	入 澤 篤 志	
5		17	月	3	医学研究への志向を涵養する	神 作 憲 司	
6		24	月	3	分子生物学を志して	三 谷 絹 子	
7		31	月	2	臨床医から基礎医学研究へ	白 瀧 博 通	
8	6	7	月	2	“未定”	福 島 篤 仁	
9		14	月	1	病理学研究医の望ましいキャリア形成	矢 澤 卓 也	
10		21	月	1	小児科医のやりがいと魅力	吉 原 重 美	
11	8	23	月	4	法医学者として生きる	黒 須 明	
12		30	月	4	眼科の魅力	妹 尾 正	
13	9	6	月	4	医学生として医師として考えていきたいこと、放射線科医の例	楳 靖	
14		13	月	4	私と生化学	杉 本 博 之	
15		27	月	4	呼吸器腫瘍内科医のキャリア	仁 保 誠 治	

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
16	9	29	水	4	新世界へ	小 野 一 之	
17	10	4	月	4	形をつくる外科医を目指して	朝 戸 裕 貴	
18		15	金	4	生き抜くために「技」を身に付ける	濱 口 眞 輔	
19		18	月	4	寄生虫病医 ～フィリピンの患者さんと共に歩んで～	千 種 雄 一	
20	11	2	火	4	外科医として生きる	小 嶋 一 幸	
21		5	金	4	奥深い老年医学との出会い ～をとということ～	大 内 基 司	
22		18	木	2	外科医の一生	千 田 雅 之	
23		24	水	5	私の描いた人生設計	窪 田 敬 一	
24	12	2	木	1	良い地に蒔かれる人になろう！	藤 田 朋 恵	
25		10	金	4	100倍の患者さんを助けるために	徳 田 信 子	
26		17	金	4	脳卒中診療に興味を持ったことから始まったこれまでの経緯	竹 川 英 宏	
27	1	5	水	5	Smail で happy life を送るために ～患者さん、仲間、自らも～	麻 生 好 正	
28	1	19	水	4	私のキャリアプラン	福 田 宏 嗣	

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

積極的な授業への参加度（30%）・レポート（70%）により評価する。

VII. 教科書・参考書・A V 資料

特に指定しない。

VIII. 質問への対応方法

メールにて受け付ける。(kyoumu@dokkyomed.ac.jp)

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	○
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートについては必要に応じて個別にフィードバックを行う。

XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

事前：シラバス別冊に記載済み。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

事後：シラバス別冊に記載済み。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，講義内容をまとめておくこと。（所要時間の目安30分）

XII. コアカリ記号・番号

A-8 科学的研究。その他，